

降下訓練における場外降着について（要請）

令和7年11月18日及び19日、防衛省北関東防衛局から「11月18日夕方、米陸軍兵士が横田基地所属のC-130輸送機による降下訓練において、区域外（羽村市）に着地した。当該兵士は、主降下傘が作動しなかったため、緊急手順に従い予備降下傘を展開したもの。作動しなかった主降下傘については、ジャンパーとともに降りたとのこと。」との情報提供があった。

横田基地においては、平成30年4月にパラシュートの一部が羽村第三中学校に落下し、平成31年1月にはパラシュートの一部が風に流され遺失した。令和2年7月には立川市内へのパラシュート部品の落下事故及び福生市内へのフィンの落下事故、そして今回の場外降着など、度重なる事故が発生している。

瑞穂町は横田基地滑走路の延長上に位置し、人員降下訓練の降下時の飛行ルートとなることが多く、今回の降下に際しても瑞穂町上空を通過した可能性がある。横田基地周辺は人口が密集した市街地であり、一步間違えれば人命にかかわる重大な事故となりうる。また、国道16号、JR八高線などを走行中の自動車や電車に降着した場合、二次被害を招くおそれも極めて大きい。

これまでも瑞穂町と瑞穂町議会による要望では、人員降下訓練実施時の安全確保の徹底及び基地外への影響を最小限に抑えるための再発防止策を求めている中で、このような事態が発生したこと、加えて事故の全容や具体的な再発防止策が示されないまま11月20日に訓練再開が予定されたことは、極めて遺憾である。

本件に対する原因究明を行うとともに、周辺自治体の住民の安全確保のために必要な措置及び再発防止策を講じ、その情報を明らかにするよう強く要請する。

令和7年11月21日

在日米軍横田基地第374空輸航空団司令官

リチャード F. マックエルハニー大佐 殿

瑞穂町長 山 崎 栄

瑞穂町議会

議 長 小 川 龍 美

瑞穂町議会基地対策特別委員会

委員長 原 隆 夫